

高度急性期病院における認知症患者の 睡眠障害遷延に関わる因子の検討

杉 本 優 輝^{*1} 千 田 茂^{*1} 山 田 博 子^{*1}
新 野 由里子^{*2} 堺 奈 々^{*3} 黒 川 勝^{*3}
松 本 泰 子^{*4}

要 旨

本研究の目的は、高度急性期病院である当院に入院した認知症患者を対象に睡眠障害遷延に関わる因子を検討することである。認知症ケアチーム（DCT）に睡眠障害に関する介入依頼があった133名を解析対象とし、診療録から基本属性、DCT介入開始時の主な臨床検査値、Barthel Index等を後方視的に調査した。睡眠障害の遷延の有無で分類した二群間で比較を行った結果、基本属性や調査項目において有意差は認められず、睡眠障害が遷延するかどうかの判断は介入開始時では難しいと考えられた。今後、睡眠障害やADLの改善状況を経時的に追っていくことや入院前の睡眠障害等の情報を収集し早期から対応を検討していく必要があると考えられる。